

事例番号:370109

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 41 週 2 日

14:00 分娩予定日超過のため誘発分娩目的で入院

4) 分娩経過

妊娠 41 週 2 日

17:45 トラロリンテル挿入

妊娠 41 週 3 日

6:14- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少、軽度および高度遅発一過性徐脈の散発様を認める

12:25 分娩停止、胎児機能不全のため帝王切開にて児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:41 週 3 日

(2) 出生時体重:3200g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.20、BE -6.6mmol/L

(4) Apgarスコア:生後 1 分 1 点、生後 5 分 4 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、胸骨圧迫、気管挿管

(6) 診断等:

生後当日 重症新生児仮死、開眼し眼球を動かさず、上下肢の過緊張による硬

い動き等の症状あり

(7) 頭部画像所見:

生後 35 日 頭部 MRI で低酸素性虚血性脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 4 名、小児科医 2 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 4 名、看護師 3 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、出生までのいずれかの時期に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血によって中枢神経系障害をきたし、低酸素性虚血性脳症を発症した可能性が高いと考える。

(2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 41 週 2 日に、予定日超過のため分娩誘発目的で入院としたことは一般的である。

(2) 分娩誘発について書面による説明と同意を得た上で、妊娠 41 週 2 日にリアンキュリング所見および内子宮口付近に臍帯がないことを確認後にフロイントルを挿入したこと、また、挿入中の分娩監視方法は、いずれも一般的である。

(3) 妊娠 41 週 3 日 6 時 14 分からの胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少、高度遅発一過性徐脈を認める状況で、医師に報告し、フロイントルを抜去後内診で臍帯下垂がないことを確認したこと、また、胎児心拍数の連続監視としたことは、いずれも一般的である。

(4) 9 時 00 分に再度内診を行い所見に変化がないことを確認、また、胎児心拍

数陣痛図で基線細変動の減少、遅発一過性徐脈が認められ、胎児心拍数波形分類のレベル 3(異常波形・軽度)からレベル 4(異常波形・中等度)と判読し、このままでは分娩進行を見込めないが陣痛促進をすれば胎児の状態が悪化すると考え、9 時 15 分に帝王切開を決定したことは一般的である。

- (5) 帝王切開決定から 3 時間 10 分後に児娩出としたことは選択肢のひとつである。
- (6) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (7) 胎盤の病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫、気管挿管)は一般的である。
- (2) 重症新生児仮死のため当該分娩機関 NICU に入院としたことは一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

- 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項なし。
- 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項胎児心拍数陣痛図を 5 年間保存しておくことが望まれる。

【解説】本事例は、妊娠 40 週 3 日に実施されたノンストレスの胎児心拍数陣痛図が保存されていなかった。「保険医療機関及び保険医療養担当規則」では、保険医療機関等は、医療および特定療養費に係る療養の取り扱いに関する帳簿及び書類その他の記録をその完結の日から 3 年間保存しなければならない。ただし、患者の診療録にあっては、その完結の日から 5 年間とするとされている。胎児心拍数陣痛図は、原因分析にあたり極めて重要な資料であるため、今後は診療録と同等に保存することが望まれる。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期に中枢神経系障害を発症した事例について集積し、原因や発症機序について、研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。